

# 新型コロナウイルス禍の 多胎児子育て状況調査

日本双生児研究学会

安藤寿康<sup>1</sup>・(布施晴美<sup>2,3</sup>)<sup>7</sup>・糸井川誠子<sup>3,4</sup>・天羽千恵子<sup>3,5</sup>・

藤澤啓子<sup>1</sup>・山形伸二<sup>6</sup>

- 1 慶應義塾大学文学部 2 十文字学園女子大学教育人文学部  
3 一般社団法人日本多胎支援協会 4 NPO法人ぎふ多胎ネット  
5 ひょうご多胎ネット 6 名古屋大学教育学部  
7 布施晴美は本活動実施中の2021年12月21日に他界された

## 日本双生児研究学会

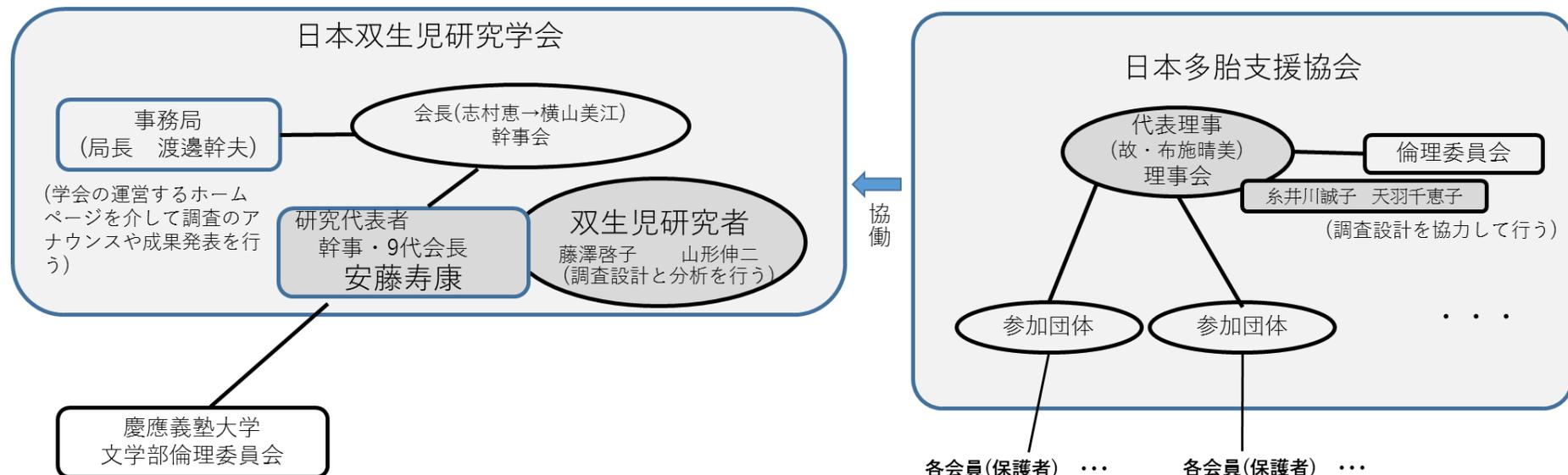


Japan Society for Twin Studies (JSTS)

<https://jsts.jp.net/>

1987年に双生児(多胎児)の研究を通じて人類の福祉に貢献することを目的として設立された学術団体

### 研究組織図



## ②調査の背景と目的

### □ ハイリスクな多胎育児

- 妊婦の100人のうち1人が多胎(98.5%がふたご)
- 複数の早産・低出生体重児の育児に伴う身体的・精神的・社会的リスク
- 国も多胎家庭を「特に手厚い支援が必要なハイリスク群」として認識、2020年度に厚生労働省「産前・産後サポート事業」に多胎家庭支援のためのメニューを創設

### □ コロナ禍の懸念

- 多胎家庭にどのような影響を及ぼしているのか、多胎家庭はこの状況を打破するためにどのように日々生活したのか、工夫したのか2020年11~12月に調査を実施 (<https://jsts.jp.net/futagoikujitocovid-19/>)
- その後の経緯を追跡する必要性

### □ 本調査の目的

全国の乳幼児期から就学前までのふたごの養育者を対象とし、新型コロナウイルス感染症のリスク下における親の子育て状況と子どもの行動を、単胎児ならびにコロナ以前のふたごと比較できる形でweb調査によって把握し、ストレスの量的・質的な状況とその要因を明らかにする。

# ③調査概要 (1)

## □ 調査方法: webアンケート

- ふたご
  - 3歳未満 <https://forms.gle/XfhRb6xaDTmNvXor7>
  - 3歳以上就学前 <https://forms.gle/m25LtzNnUpa8sbCn6>
- 単胎児
  - 3歳未満 <https://forms.gle/1hitd3dyp8qKzNXDA>
  - 3歳以上 <https://forms.gle/LHfEcjnK41CXctHi7>

## □ 時期: 2021年12月～2022年1月

## □ 対象者

- 多胎児:日本多胎支援協会所属団体の会員ならびにそこからの縁故法による拡散 (155件)
- 単胎児:全国の認定子ども園に協力を依頼 (51件)

## □ 分析方法:量的データの記述的分析

## □ 仮説

- 妊娠出産状況のリスク・サポートはコロナ後に悪化
- 子育てストレスは単胎児より多胎児の方が大
- ふたご関係、夫婦関係は悪化? 改善?
- etc

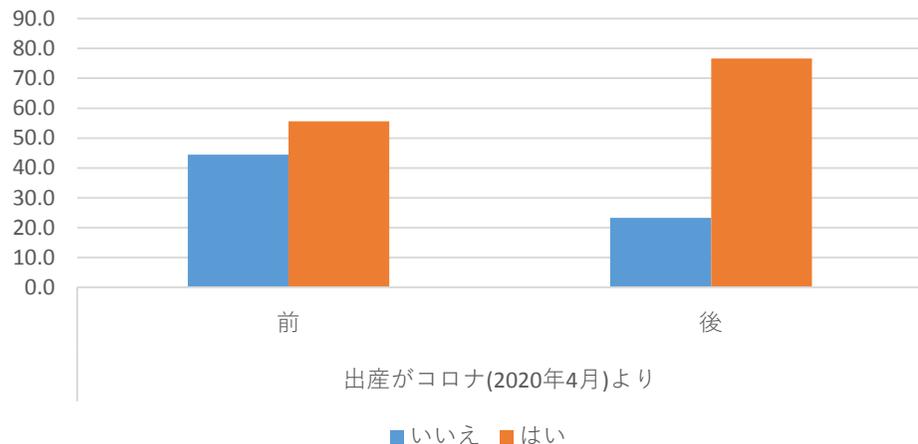
## ③調査概要 (2) 調査項目

- 「周産期から3歳未満」版と「3歳以上就学前」版にわけると
  - 基本情報(居住都道府県、両親・ふたごの生年月日、卵性など)
  - 両親の就労状況(第1回自粛前 vs 2020年度 vs 2021年度)
  - 出産に際しての状況
  - 夫婦関係の変化
  - 家族の介護状況
  - 親の生活状況(経済状況・就寝・起床時間、外出)
  - 親のストレス状況
  - ふたごの生活状況
  - ふたごのストレス状況
  - ふたご関係
  - 自由記述(ストレス・困りごと・よかったことetc)
  
- ◆ 200項目以上!!! (←2020年度100項目)

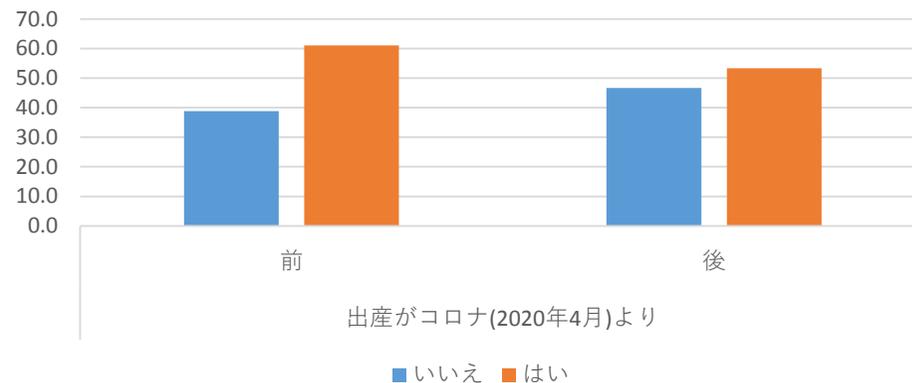
# ④ 調査結果 (1)

## 妊娠出産時のリスクは増加、サポートは減少

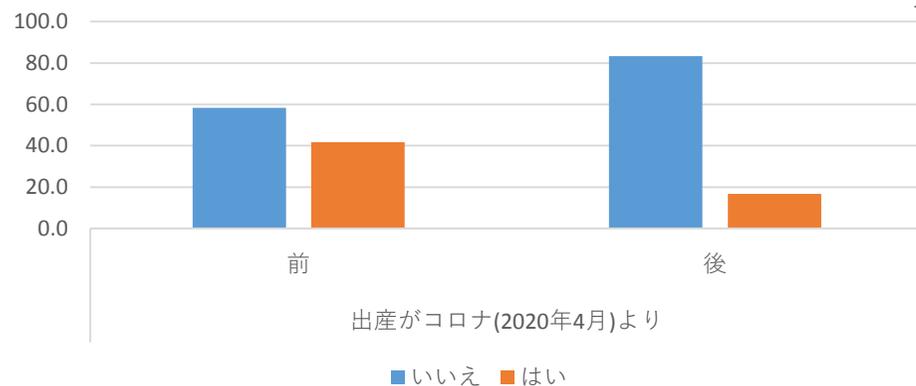
妊娠中にトラブルはありましたか？



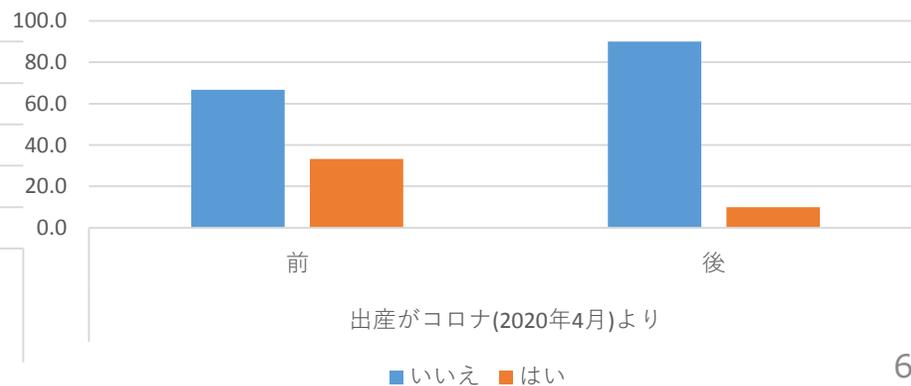
妊婦健診にパートナーや家族の  
同伴はありましたか？



病院・産院等の両親学級等を  
受講しましたか？

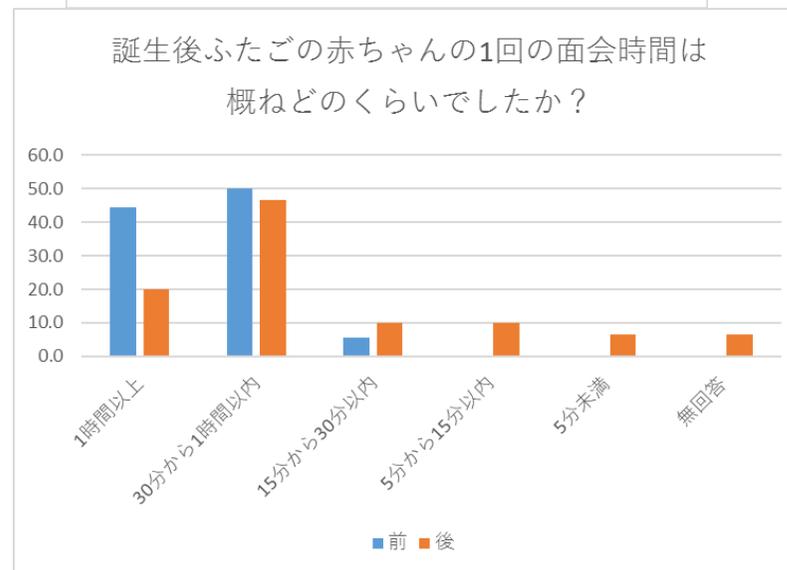
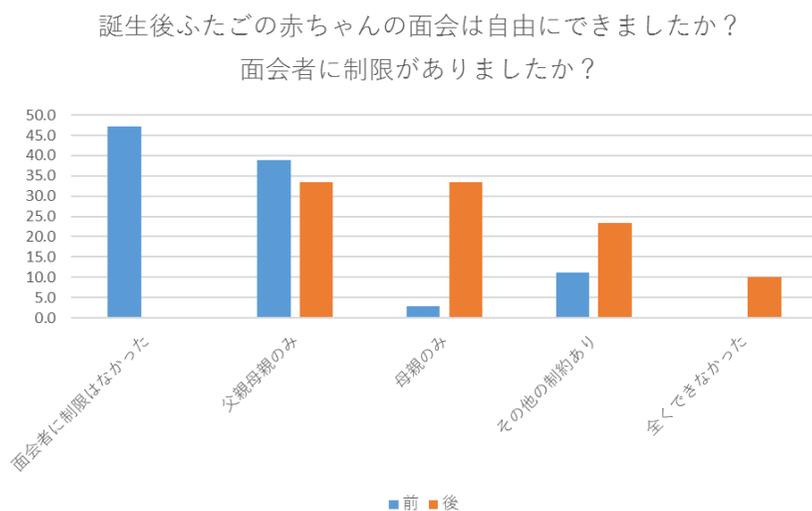
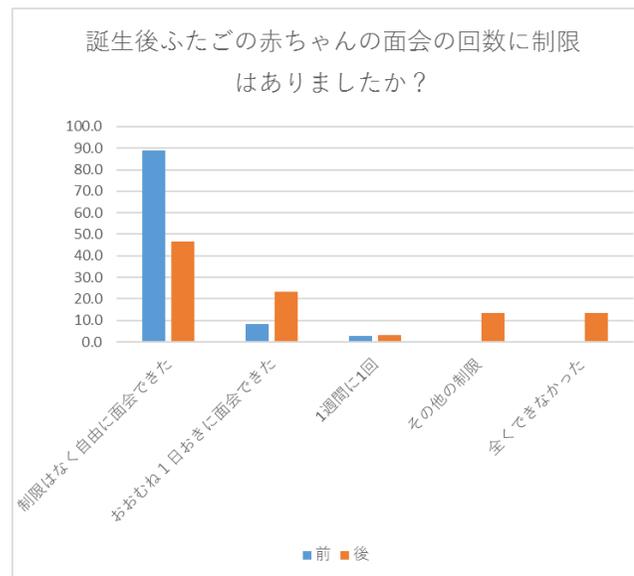
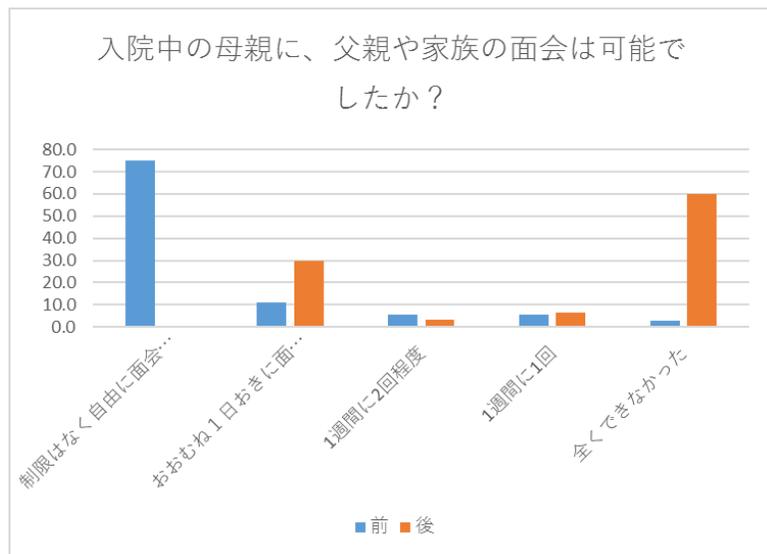


出産時、パートナーや家族の  
立ち合いはありましたか？



# ④ 調査結果 (2)

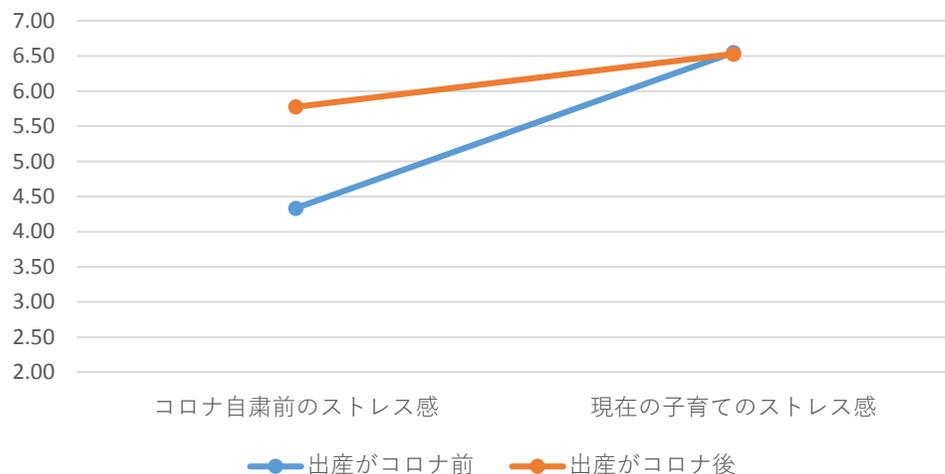
## 2人に授乳すらできないほどの親子のふれあいの激減



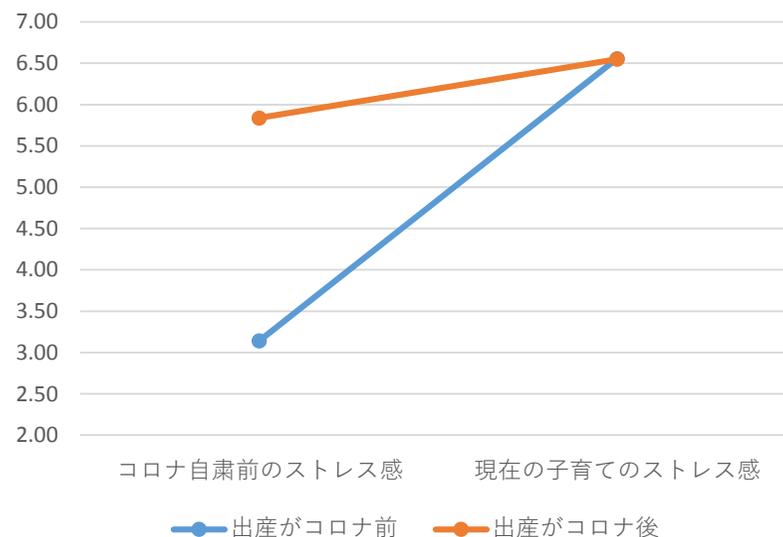
# ④ 調査結果 (3)

## コロナ後に出産した母親はストレス度が飽和状態

子育てストレス感 (1~10)  
本調査(2021年)



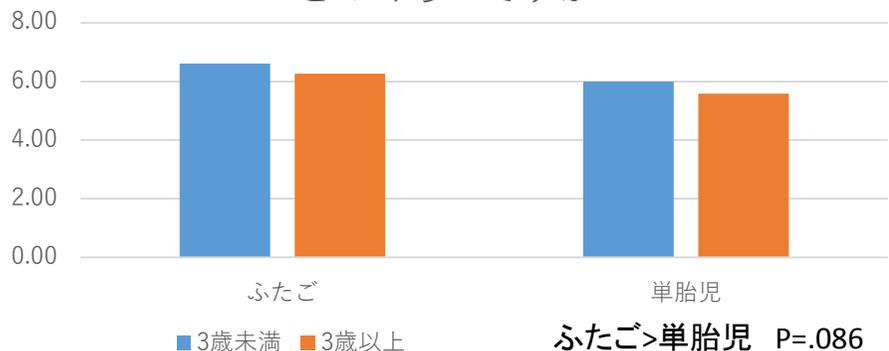
2020年データ



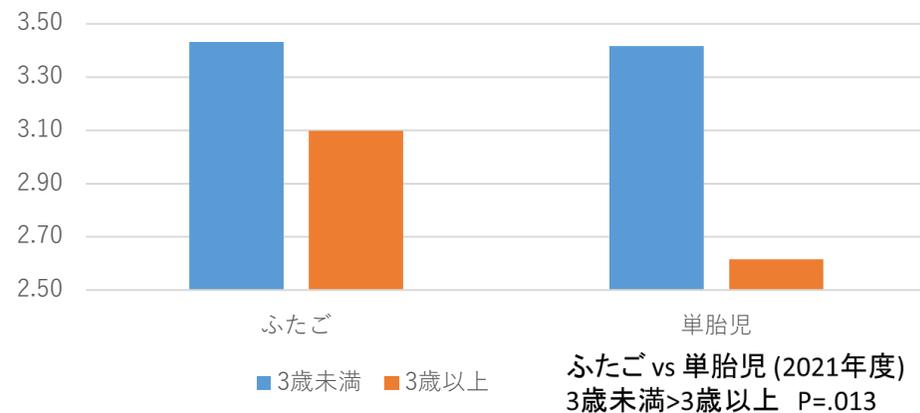
# ④ 調査結果 (4)

- ✓ ふたごの母と単胎児の母との子育てストレスの差はあまりない
- ✓ 3歳未満(コロナ後出産)の方が3歳以上(コロナ前出産)よりストレス高

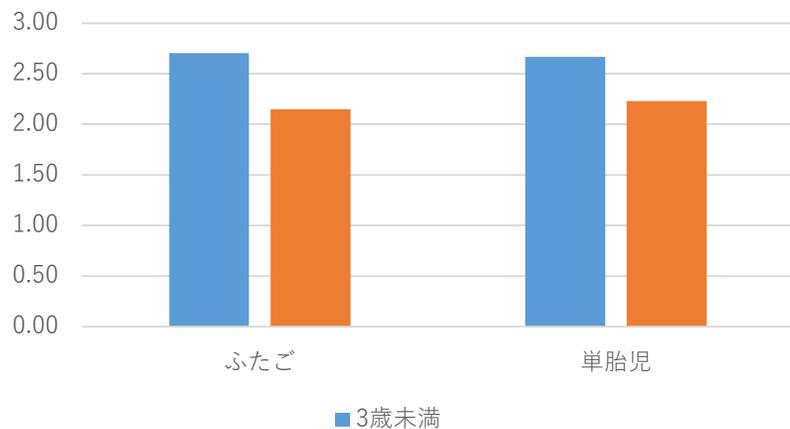
現在の子育てのストレスを10段階で表すと  
どのくらいですか



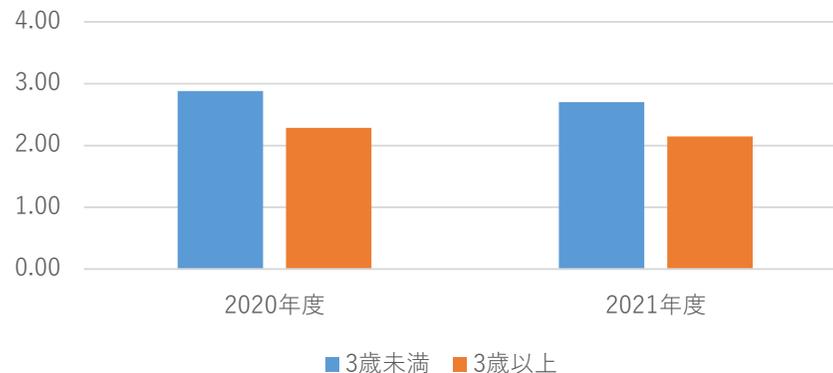
物事をうまく扱えないと感じることが多い



孤独で、友達がいないと感じている

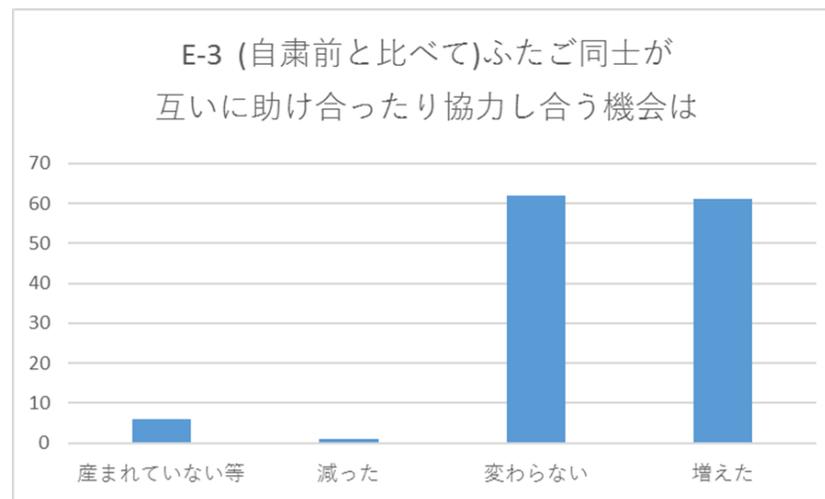
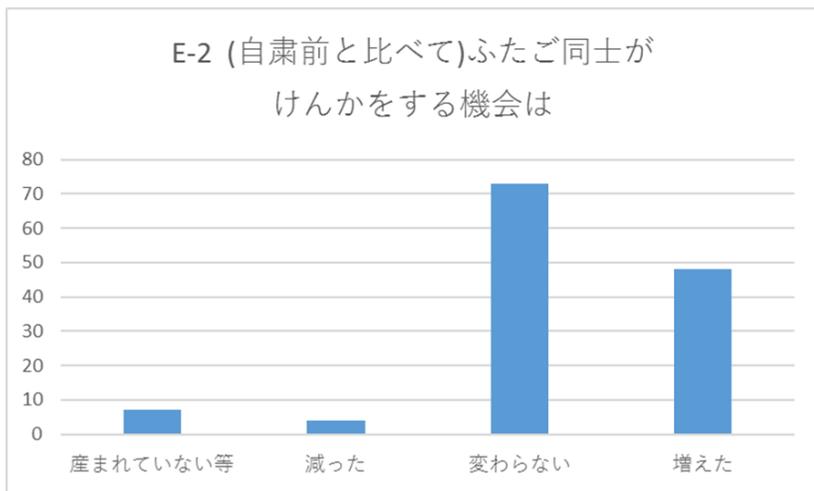


孤独で、友達がいないと感じている

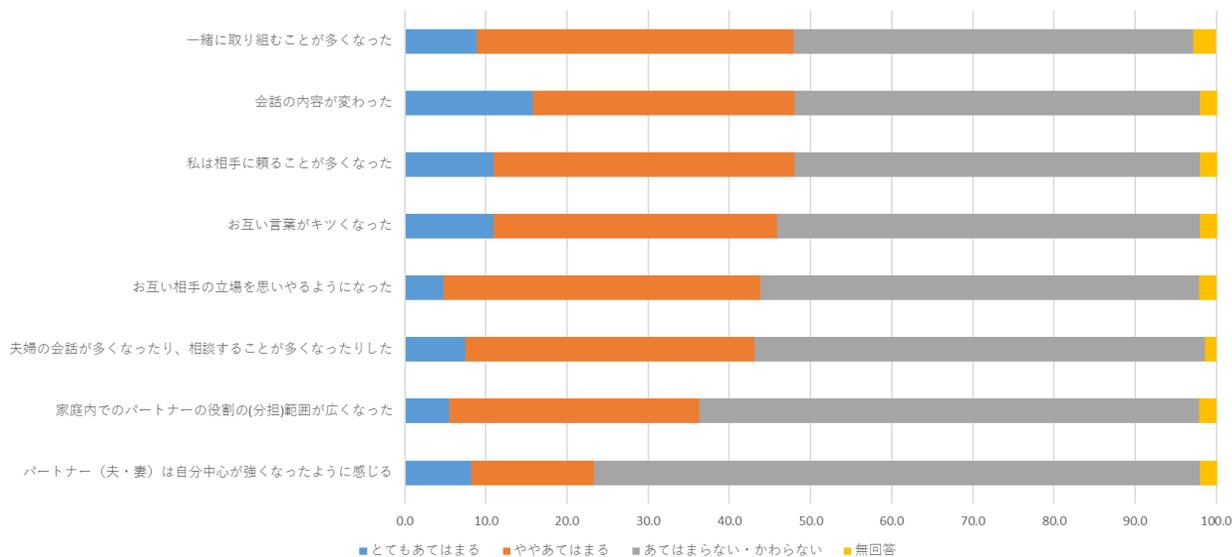


# ④ 調査結果 (5)

- ✓ ふたご同士、けんかも増えたが助け合いも増えた
- ✓ 夫婦間の助け合いも増えた



夫婦関係の変化



## ⑤分析

1. コロナ禍における妊娠期のトラブル上昇やサポート機会の減少、出産後の面会機会の減少は、特に多胎であることを考えると、身体的(eg.未熟なままでの退院、授乳機会の減少)、心理的(eg.個性の違いをふまえた育児)・社会的問題(eg.社会サポートへの連結)を増大させ、子育てリスクを深刻化・長期化させる懸念が高まる。
2. コロナ禍後に出産した母親のストレス度はほぼ飽和状態であると思われる。ただしそのストレス度は母子の成長とともに低減する傾向がある。またふたごの親と単胎児の親のストレス度の差は予想したほど大きくはない。
3. コロナ禍によって、夫婦関係もふたごきょうだい関係も確実に変化している。ただしその変化は必ずしも悪化したのではなく、むしろ家族関係を緊密なものにしている(eg.けんかも増えるが助け合いも増える)ことがうかがえる。

## ⑥まとめ

1. ふたご家庭は単胎児家庭よりも経済的負担感も高いことが、これまで、またこのコロナ禍の調査でも示されている。それに加えて、コロナ禍による医療的・社会的サポート機会の減少が、多胎児育児の困難さを高めている。多胎であることを考慮した諸状況の改善(eg.面会回数・時間を子どもの数に応じて2倍にするなど)のための支援を行政・医療・コミュニティー等に働きかける必要がある。
2. 親のストレス度は、ふたごのほうがやや高い傾向にあるものの、その差は著しいものではなかった。このことから、本調査で示された親のストレス状況に関連するさまざまな知見は、単胎児の親に対しても同じように適用されうる普遍的・一般的な知見である可能性がある。
3. ふたごは単胎児と比較して、家庭の中ですでに「社会的」な関係を築きやすい(eg.けんかもするが助け合いもする)。自由コメントからは、日常の格闘の末に、ふたごの育児を楽しみ前向きに捉えようとする姿が浮かび上がっていた。
4. 調査項目が多く、調査疲れも見受けられ、そのために協力が十分に得られず、回答数が予定を大幅に下回ったことが大きな問題点として残った